

令和7年3月3日
蒔田ひまわり保育園

蒔田ひまわり保育園の自己評価

この度、保育園の自己評価を実施し、皆様の結果をご報告させていただきます。

今年度は、異年齢保育に特に力を入れており、子どもたちが異なる年齢の友だちと触れ合いながら、多様な学びや成長を体験できる環境を提供してきました。

●今年度の取り組みについて

1. 食育を通して遊びの中では出来ない経験を積む
2. 異年齢保育を通して協調性や社会性、他者を尊重する心（思いやりなど）を育む
3. 子どもの主体性を引き出し、保育士は子ども達と共通の目標を持つことで、子ども達が自ら挑戦し個性を尊重する環境づくりをする

●取り組み内容

1. 食育を通して遊びの中では出来ない経験を積む

→年間を通し、旬の食材以外の食材自体には大幅に変化はないため、同じような活動ばかりにならないか懸念がありましたが、各クラスが触れてみたい食材や、取り組んでみたい食育を提案し、食育担当の保育者が中心となり、栄養士と密にコミュニケーションを図りながら、年齢に応じた食育のレパートリーを増やすことができました。クラスの仲間と一緒に食材に触れる活動を楽しむことで食材を身近に感じられ、クラス全体が自然と「苦手な物も少しでも口にしてみよう」という意欲的な雰囲気へと導かれ、日々の食事への意欲や関心として根付く様子も見られました。

2. 異年齢保育を通して協調性や社会性、他者を尊重する心（思いやりなど）を育む

→幼児クラスの子どもたちが、乳児クラスのお世話をすることで自分に自信を持つきっかけとなり、お世話をしてもらった乳児クラスの子どもにとっては、憧れを持ち、「先の自分」を思い描く良いきっかけとなりました。また、関わりの中から頼られる喜びや、思いやる気持ち、主体的に関わろうとする気持ちを持つようになり、互いに社会性を育むことができました。

3. 子どもの主体性を引き出し、保育士は子ども達と共通の目標を持つことで、子ども達が自ら挑戦し、個性を尊重する環境づくりをする

→安全面を考慮し、保育士が介入しすぎてしまう面も多々ありましたが、子ども達の遊びが展開していくよう見守りながら、保育環境を整える工夫をしまりました。保育士同士で子どもの成長や個々に合った目標を共有していくことで一貫した関わりを持つことができ、一人ひとりが個性を發揮しながら、自ら取り組む機会をもつことができました。

●来年度に向けて

- ・食育活動では、今年度同様、栄養士とコミュニケーションを図りながら、年齢に応じた楽しい食育活動を展開していきたいとします。
- ・子どもたちの主体的な姿を見守り、答えを示すのではなく、答えに辿り着くためのヒントを伝えながら、自分で考える姿を大切にしていきたいと考えています。また、自分で挑戦したいという気持ちや意欲を掻き立て、安心・安全に取り組めるような保育環境を整えていきたいとします。

●令和7年度目標

1. 自立心を育みながら、個々が輝く保育環境を整える
2. 日々の保育だけではなく、色々な行事や活動の取り組みを充実させていく